

## 第6回北海道地区高校生介護技術コンテスト 課題及び評価の基準（改訂）

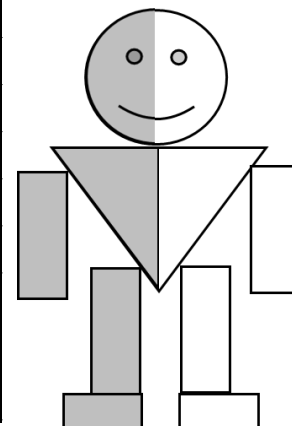
以下の利用者の情報を読み、1日の生活で考えられる介護の一場面を想定して、どのような介護サービスの提供ができるのかを考え、発表しなさい。

### 1 利用者の情報

置戸 晴子さん(67歳、女性)は、2年前に脳出血を発症し、右片麻痺の後遺症が残った。退院後、自宅に戻ったが、段差や物につまずいて転倒することが多かった。夫と息子夫婦、孫2人と暮らしているが、平日の日中は一人になってしまうことが多く、家族は在宅生活を心配していた。そこで、家族と本人の話し合いの結果、リハビリテーションが必要だと言う結論に至り、介護老人保健施設Aに入所することとなった。

### 2 健康状態

NO.	項目	
1	要介護状態区分／障害度等級	要介護I
2	認知症高齢者の日常生活自立度	Ⅱb
3	障害高齢者の日常生活自立度	A-1
4	現在の主な疾患	血管性認知症
5	既往歴	脳出血
6	その他	元々右利きであったが、麻痺により利き手の動作が困難となり、利き手交換のリハビリテーションを受けている。現在は日常生活に支障のない程度まで左手を使えるようになっている。



### 3 活動（日常生活の状況）

NO.	項目	現在の状況（本人の思い）
7	家事	（入所前は調理や洗濯、掃除などできる限りで行っていたため、在宅復帰後も出来る範囲で家事を行いたい。）
8	移動	歩行時にややふらつきはあるもののトイレや食事などの短い距離の移動は自立しており、多点杖を使用して移動している。入浴や外出の際は、車いすを使用して移動している。 杖や手すりを使えば自力で立ち上がることができ、支えがあれば立位は安定している。 （長い距離の移動でも出来るだけ自分の足で歩きたい。）
9	身じたく	着衣の方法がわからないときがあり、職員の声かけがないと着替えることができないが、声かけがあれば自力で着脱を行うことができる。かぶり着が多く、衣服のデザインやコーディネートにはこだわりがある。 （おしゃれに気を遣い、いつまでもキレイでいたい。）
10	食事	自助具を使って自力で摂取することは可能であるが、声かけがないと自ら進んで食べ始めようとしない。一つのものを手にするとそればかり食べる傾向がある。 （施設の食事は味が薄くておいしくないなので、もっとおいしいものを食べたい。）
11	排泄	尿意・便意があり、リハビリパンツとパッドを使用している。失禁することは少なく、トイレへの誘導があれば自力で排泄できるが、ズボンの着脱に時間がかかり時折失敗することがある。 （リハビリパンツの着用は恥ずかしいため、出来ることなら着用したくない。）
12	入浴・清潔保持	週に2回一般浴にて入浴している。浴室では、入浴用車いすを使用して移動している。頭や背中、足などを洗う際は一部介助が必要であるが、その他の部分は自分で洗うことができる。 （入浴は気持ちよくもっとゆっくり入りたい。入浴すると麻痺の手が動きやすく楽になると言っている。）

### 3 活動（日常生活の状況）

13	睡眠	夕食後すぐに部屋に戻り、着替えを済ませ20時過ぎにはベッドに入っている。身体が冷えて眠れないことが多く、湯たんぽで身体を温めて寝ているが、それでも眠れない場合は睡眠導入薬を服用して眠っている。夜間は2時間に1度目を覚まし、トイレに行く。 (自宅にいる夫のことが心配でよく眠れない。)
14	コミュニケーション	コミュニケーション能力は良好で意思疎通ができる。時折、聞き取れない場面も見られるが、大きな声で話をすれば聞き取れる程度であるため補聴器の使用はない。話すことが好きで自分から職員や他の利用者に話しかけている。一方で、口調がきついこともあり、時より他の利用者とはトラブルになってしまうことがある。

### 4 参加（豊かさ）

NO.	項目	現在の状況（本人の思い）
15	意欲・生きがい	細かい作業が得意でお部屋にある人形に着せるためのドレスを縫っている。家族思いで毎日夫や息子に電話をしている。 (自宅に戻って昔のように料理をしたり、夫と一緒に家庭菜園をしたい。自宅の畑が心配。)
16	余暇の過ごし方	食堂で利用者の方とお話を楽しんでいる。また、タオルやおしぼりを畳むなど職員が行う作業を積極的に手伝っている。 運動が苦手であることから、身体を動かすレクリエーションへの参加は消極的である。 (調理や掃除などの手伝いをしたい。)

### 5 環境因子

NO.	項目	現在の状況（本人の思い）
17	生活環境	居室は一人部屋である。タンスの上には、夫の昔から今までの写真が飾られている。
18	家族関係	毎週末、必ず夫が面会に来る。また、1か月に一回息子夫婦と孫も面会に訪れるなど、家族関係は良好である。 (家族と毎日会いたい。)

### 6 個人因子

NO.	項目	現在の状況（本人の思い）
19	性格	話すことが好きで自分から職員や他の利用者に話しかけている。優しい性格で面倒見がいいが、口調がきついこともあり、時より他の利用者とはトラブルになってしまうことがある。
20	生活歴	C町出身。大学卒業とともに60歳まで小学校の教員として働いていた。25歳で結婚し、27歳で息子を授かった。入所前は夫と息子夫婦、孫2人と生活していた。
21	特技	料理が得意で入所前は毎日献立にこだわった料理を家族に振る舞っていた。また、裁縫が得意で日中は人形に着せるドレスを作っている。

7 介護老人保健施設Aの日課表

時間	内容	時間	内容
6:00	随時離床・着替え・整容	12:00	昼食、服薬
	トイレ誘導、排せつ介助		片付け・食べ終わった人から口腔ケア
7:00	随時食堂へ	13:00	個別リハビリテーション②
7:30	朝食の準備		レクリエーション活動（個々の介護計画による）
	片付け・食べ終わった人から口腔ケア		入浴②（個々の週間予定表による）
9:30	個別リハビリテーション①（個々の週間予定表） （置戸さんは週2回午前・午後の時間どちらかで、火曜日と木曜日に実施）		水分補給、排泄介助
		17:45	夕食の準備
	集団体操	18:00	夕食開始、服薬
	入浴①（個々の週間予定表による）		片付け・食べ終わった人から口腔ケア
	水分補給、排泄介助		排泄介助
11:30	嚥下体操	19:00	自由時間
11:45	昼食の準備		着替え、就寝の準備
		21:00	就寝

8 審査項目

内容	項目
テーマ設定	利用者の生活課題を的確にとらえているか
研究方法	利用者の状況が理解されているか
	自立と尊厳を支える視点があるか
	ICFの視点に基づいた研究であるか
結果と考察	根拠に基づいた発表であるか
	利用者の生活課題を解決するため、具体的な提案はあるか
	適切な考察ができているか
発表技法	時間内に分かりやすく表現できたか
	論理展開に優れ、説得力があるか
	発表者同士の連携が適切になされているか